

第一圖 岩槻受信所に於ける對臺北用指向性受信空中線柱の建柱狀況。

内地臺灣間無線電話連絡用 短波指向性空中線に就て

逓信省工務局長 稲田三之助

内地臺灣の無線電話連絡施設調査用として最近東京無線電信局檢見川及岩槻送受信所に短波指向性空中線が建設せられた。

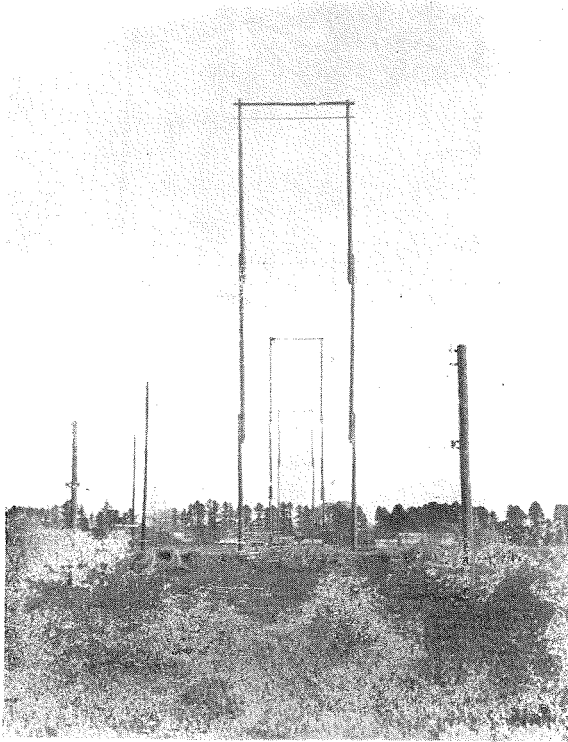
指向性空中線とは所要の一方向に對してのみ、最も強勢なる送波若くは受波を行ふ特性を有するもので、之れを使用する時は無線電波の送受波勢力を著しく増進し、且、通信の祕密を確保する上に多大の利益がある。

寫眞は岩槻受信所に於ける逓信省式短波指向性空中線を示すもので、高さ30米のH柱間は數多の水平線條が上下二段に架渉せられてある。

尙本空中線の實驗成績は極めて優秀であつて、本年5月上旬獨逸ナウエンDHOからの

無線電話受話試験に試用し、毎日強勢且明瞭なる受話成績が得られた。(昭和五年五月)

追記 十月廿七日に行はれた軍縮條約成立祝賀演説の國祭中繼放送に使用した短波空中線も之と同様の方式であるが、高さ45メートル、スパン100メートルの木柱三本に指向性アンテナを架設し、其後方約10メートルの處に同様に本の木柱を建設し之にレフレクターが架設されて居る、檢見川には送信用、岩槻には受信用のものを新設したのである。(昭和五年十一月)



第二圖

對臺北(1.2.240ke)受話用短波指向性空中線の側面を示すものでH柱の向つて右寄りに受波部空中線が又向つて左寄りには反射部空中線が架渉せられてある、反射部空中線は後方から來る電波の受波勢力を極少ならしめる用途をなすものである。

第三圖

向つて右側のH柱 3本は第二圖に示す空中線の遠望であつて、左側のH柱2本間には對濠洲受話試験用空中線が架渉してある。

